

### 黒田徳米 (1886～1997)

日本の貝類学の礎を築いた貝類分類学者で、日本の貝類分類学創成期における随一の研究者である。兵庫県淡路島福良(ふくら)に生まれる。1901年(明治34)京都に移り、平瀬与一郎が創設した平瀬介館(のち平瀬貝類博物館)に勤め、事業を助けるとともに貝類研究に従事する。1921年(大正10)京都帝国大学理学部地質学鉱物学教室助手となり、標本・図書維持管理にあたり、1937年(昭和12)台北帝国大学理農学部に移り、1940年辞任した。以後、京都帝大理学部附属瀬戸臨海実験所、資料科学研究所、連合国最高司令部(GHQ)天然資源局などに嘱託、顧問として関与した。この間、1928年日本貝類学会設立に参画し、1948～1963年(昭和23～38)同学会会長、以後名誉会長となる。

### 西宮貝類館

1999(平成11)年5月7日に開館した貝類専門の博物館・西宮貝類館には、黒田徳米博士の学術資料を核とした約10万点の標本が所蔵されています。また、西宮貝類館は建築家安藤忠雄氏が設計されました。ヨットの帆をイメージした建物で、館内は海の中を思わせるブルーで統一されています。

